

労働社会科学研究所からの連帯メッセージ

戦争に反対し、民衆福祉の拡大を誓う3・8大会になることを願って

韓国・労働社会科学研究所 運営委員会

アンニョンハシムニカ？

世界女性の日を迎え、東京で共同集会を開催される日本の同志たちに尊敬の念と連帯の挨拶を送ります。

「とめよう！戦争なくせ！貧困今わたしたちができること」が今年のテーマだと聞きました。資本主義的生産の矛盾によって深化している経済危機と、それにとまなう帝国主義国家間の競争・対立の激化があちこちで戦争を生み出しており、少数の独占資本への富の集中が人民大衆をますます貧困へと追い込んでいる状況にあるので、適切なテーマだと思います。

こちら韓国では、昨年12月3日、大統領尹錫悦の非常戒厳の試みを糾弾して、かれの罷免を求める目覚めた民衆の闘争と、尹錫悦を支持する「太極旗部隊」をはじめとした極右の蠢動によって、非常に混沌とした状況です。

尹錫悦政権は、発足以来一貫して韓米日戦争同盟を強化し、軍事訓練を日常化し、天文学的な金額の米製武器を購入しました。やはり親米政権であった文在寅政権が5年間で約2兆5000億ウォン分を購入したのに対し、尹錫悦政権は2023年に18兆ウォン、2024年に21兆ウォン分を購入したと報道されています。総合不動産税・相続税・法人税などの引き下げによる「富裕者減税額」が81兆ウォンに達する現実のもとで、爆発的に膨らんだ武器購入費は、結局、わずかな民衆福祉の縮小につながり、貧困層のためのセーフティーネットが崩壊しています。

候補の時期から女性家族部の廃止を掲げていた大統領尹錫悦は、女性に対する差別と排除で一貫しており、これに呼応したねじけた若い男性たちが尹錫悦支持層となりました。そして、尹錫悦弾劾政局において、かれらは「新男性連帯」、「白骨団」などの極右勢力として政治に首を突っ込んでいます。尹錫悦退陣広場に大挙して参加している「2030」女性たちの熱烈な闘いは、反共・反北・反中イデオロギーに染まったこれら極右の政治勢力化と対照的です。現実に対する転倒した認識と極右ユーチューバーたちのフェイクニュースに包摂されたかれら極右とは違い、尹錫悦退陣広場にクィア、フェミニスト、障がい者、移住者などの名で登場する輝く女性たちは、現実の差別と排除に屈せず、みずからの存在を明らかにして抵抗をはじめたという点で美しいです。しかし、極右に包摂されたかれら若い男性たちも、退陣広場に参加する女性たちも、階級的にはすべて非正規職・不安定労働者であり、労働組合にも加入できない未組織労働者が大半なのです。

性別賃金格差がOECD内で第1位、非正規職の比率が57・3%に達し、女性1人世帯の貧困率が55・7%に達し、女性非正規職の賃金が男性正規職賃金の38・8%であるのが韓国社会の現実です。今年も民主労総は「3・8世界女性の日精神継承全国労働者大会」を準備しています。民主労総が今年掲げたスローガンは「世界を変えよう！わたしたちが平等だ！」です。しかし、民主労総の教育紙には、ますます増大している戦争の危機についての言及はありません。戦争によってもっとも苦痛をうける階層は、断然、女性であるにもかかわらず、です。

現在、多極の帝国主義の対立は戦争の危機を高めており、人類は戦争か革命かの切迫した危機に直面しています。韓国の女性（労働者）運動が、この問題についてもっと関心を持つようにすることが先進的な活動家たちの課題だと思います。日本の同志たちが東京集

会のテーマを「とめよう！戦争 なくせ！貧困 今わたしたちができること」に決めたことに対し、あらためて敬意を表します。韓国における富裕層減税と武器購入の増大、そして民衆福祉の縮小の同時進行について話しましたが、これは明らかに資本主義社会の世界的な趨勢でしょう。このような状況のもとで、戦争に反対し、民衆福祉を拡大することを誓う3・8大会になることを願っています。もう1度、連帯の挨拶を差し上げます。

闘争！

労働社会科学研究所 運営委員会
【訳＝土松克典】